

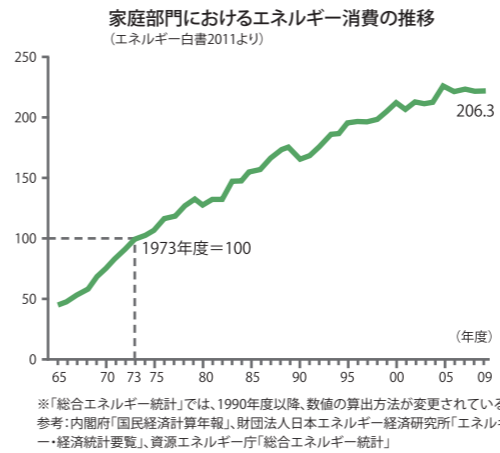


秋～冬の省エネの工夫 新しい暮らし方とエネルギー

東日本大震災をきっかけに、これまであたりまえのように使ってきた「電気」をはじめとする、くらしのエネルギーへの関心が高まっています。エネルギーを大事に使う。ずっと先の未来に関わる課題を、まず身近なところから、何ができるのか考えてみましょう。

206.3 家庭のエネルギー消費は増加 自給率はごくわずか

「省エネ」という言葉がすっかり定着し、「日本の家庭におけるエネルギー消費は、減り続けている」と思われている方が多いのではないのでしょうか？実は、高度経済成長期終盤の1973年度を100とする、2009年度では、**206.3**。なんと約2.1倍も増えているのです。個々の電化製品で省エネ化が進んでいても、パソコンや携帯電話など新たな電化製品の浸透や便利さを求める傾向が強まり、家庭でのエネルギー消費は、ますます増え続けているのです。



4% 日本のエネルギー自給率は4%

「エネルギー自給率」とは、くらしや産業に欠かせない電気やエネルギーをつくるためのもとの天然資源のうち国内で確保できる割合のことをいいます。国内で採れる量も豊富で、燃料に石炭が多く使われていた1960年頃には58%あった自給率は、高度経済成長にもないエネルギー消費量が大きく増え、石油への転換、輸入が進み、急速に低下。2008年度には自給率はわずか**4%**となっています（水力・地熱・太陽光・バイオマスなど）。

今の私たちのくらしを支えているエネルギーは、ほとんどを石油・石炭・液体天然ガスなどの化石燃料に依存し、しかも輸入に頼っているのが実情なのです。一方で、東日本大震災後、国内でつくることのできる自然エネルギーへの転換も叫ばれています。私たちにまずできることは、エネルギーを大事に使うくらしではないでしょうか。

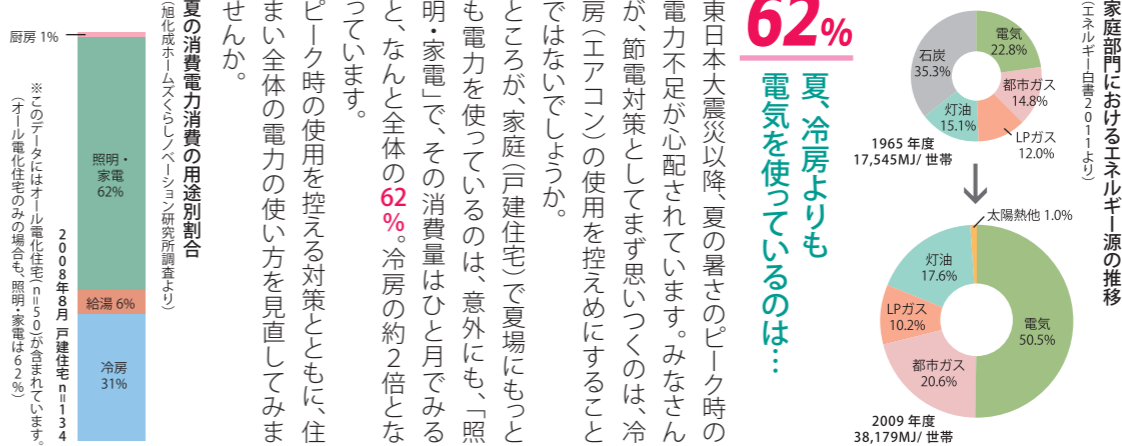
51% 家庭でも最も使われるエネルギーは「電気」

1965年度の高高度経済成長期のまっただなか、国内の家庭用エネルギー消費量の

62% 夏、冷房よりも電気を使っているのは…

東日本大震災以降、夏の暑さのピーク時の電力不足が心配されています。みなさんが、節電対策としてまず思いつくのは、冷房（エアコン）の使用を控えるにすることではないでしょうか。

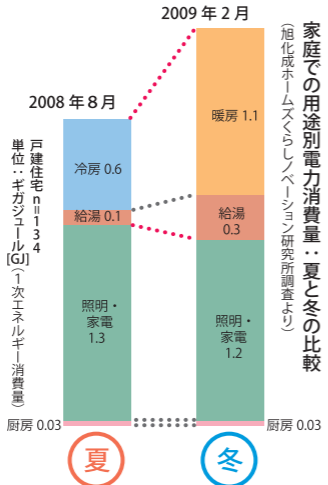
ところが、家庭（戸建住宅）で夏場にもっとも電力を使っているのは、意外にも、「照明・家電」で、その消費量はひと月で見ると、なんと全体の**62%**。冷房の約2倍となっています。ピーク時の使用を控える対策とともに、住まい全体の電力の使い方を見直してみませんか。



2倍 夏より冬の方が電力消費量が多い！

電気を多く使う季節といえば、「夏」といいますが、実は、日本の多くの家庭では夏よりも冬の方がたくさん使っています。

ひと月で見ると、冬の「暖房」と「給湯」に使うエネルギーはなんと、夏の「冷房」と「給湯」の**2倍**です。冬こそ、「省エネを意識して生活したいものですね。」

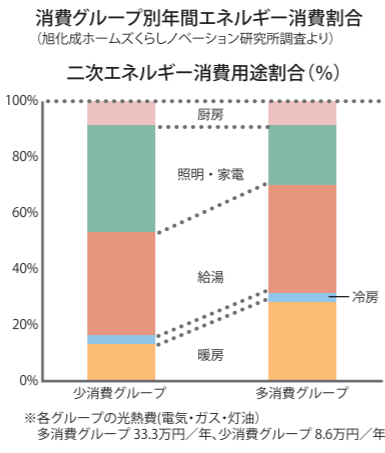


39% 冬の節電 家庭での省エネのカギ

東日本大震災以降の夏の電力不足をさまざまな節電努力で乗り越えた日本。夏場の平日、電力需要のピークは「14時頃」ですが、このときの節電の取り組み主体は企業でした。

一方、冬の平日の電力使用のピークは全体で「18時頃」、家庭では、帰宅して照明や暖房、テレビ、夕食の準備に炊飯器や電子レンジが活躍する「19時以降」です。さらに、エアコンを使用する家庭では、19時に使う電力の43%を「エアコン」と「照明」が占めます。冬の節電は、家庭での取り組みが不可欠といえます。

家族の人数や住まいの広さなどの条件によって、また省エネへの取り組み方によって、エネルギー消費量の多い世帯と少ない世帯があり、その使い方にも大きな違いがあります。



例えば「暖房」【多消費世帯】ではエネルギー消費全体の28%も占めているのに対して【少消費世帯】ではわずか12%となっています。一方「照明・家電を見ると【少消費世帯】では**39%**も占めていて、何と【多消費世帯】の約2倍。

つまりエネルギー消費の少ない世帯でも「照明・家電」はなかなか減らしにくい。裏を返せば、「照明・家電」をいかに減らすかが、家庭での省エネの大きなポイントといふこととなります。

「省エネの達人」をめざせ！ 省エネワンポイントアドバイス

<p>● テレビの視聴方法の進いによるエネルギー消費量の比較</p> <p>リビング 40インチ液晶テレビ ながら視聴あり ながら視聴なし （1日1時間短縮）</p> <p>削減エネルギー量 243 MJ/年</p>	<p>● LD/和室の照明・点灯方法の違いによるエネルギー消費量の比較</p> <p>LD 天井灯は夕暮れから は夕暮れからダウングラ ダントとダウングラ トは食事の際点灯。</p> <p>和室 在室時に点灯。</p> <p>削減エネルギー量 929 MJ/年</p>	<p>● 蛍光灯やLED照明を上手に使い、こまめに消灯</p> <p>LD 天井灯は夕暮れから は夕暮れからダウングラ ダントとダウングラ トは食事の際点灯。</p> <p>削減エネルギー量 821 MJ/年</p>	<p>● 湯が冷めないよう家族が続けて入浴する</p> <p>家族が1時間おきに20分 間ずつ入浴。公中以外は 浴槽にふたをし、追い炊き は1日2回。</p> <p>削減エネルギー量 720 MJ/年</p>	<p>● 浴室の給湯の温度を下げ利用時間を短縮</p> <p>浴槽での湯の利用条件によるエネルギー消費量の比較</p> <p>入浴時、洗髪・洗髪・洗髪 上がり湯にシャワー・蛇口 の湯を利用。家族のこち ひじりは、1日1回シャ ワー入浴。</p> <p>削減エネルギー量 2566 MJ/年</p>
---	---	---	---	---

※削減条件：浴槽とシャワーを併用する場合は、シャワー・蛇口の湯を利用する際、温度を2℃下げ、ひとりで1日1分ずつ利用時間を短縮。

省エネ習慣まめちしき

- 給湯器スイッチ↓使わない時はOFF
- 特に、旧機種は待機電力が大きいです
- テレビの主電源OFFの習慣を
- 主電源オフは、録画機能に影響がないか取扱説明書で確認してから。
- 温水洗浄便座もこまめに電源OFF
- 必要な時だけオン。例えば、起床から午前中のみ通電。(タイマーも活用)
- 冷蔵庫は季節によって設定温度変え
- 気温で消費電力が変わるので、こまめに調節を。
- パソコンのシャットダウン
- きちんとシステム終了し、長時間使用しない場合はコンセントも抜いて。

エネルギーの大切さを知った私たち日本人は、あらゆる面から、いままでのくらし方を見直さなければならぬ状況におかれていることは間違いありません。

けれども、それは決して便利さや豊かさを否定し、昔に後戻りしたり、つらいことを我慢して耐えるということではなく、必要なのは、いままでとは違う新しいくらし方、新しい価値観を手に入れることなのではないかと考えます。

快適で健康に。エネルギー負荷の少ない暮らしのきっかけを集めた小冊子を作成しています。是非お役立てください。

くらしノバージョン研究所HPより。
http://kurashinovation.jp

※掲載の図やグラフの出所：経済産業省 資源エネルギー庁「エネルギー白書2011」、旭化成ホームズ「くらしノバージョン」研究所調査より